

甲斐犬グッズ
販売続々登場!



トートバック



ハンドタオル



バスタオル



マフラータオル

- ・トートバック
- ・マフラータオル
- ・ハンドタオル
- ・バスタオル
- ・クリアファイル

南アルプス市観光協会
オリジナルキャラクター
南アルプス かいまる

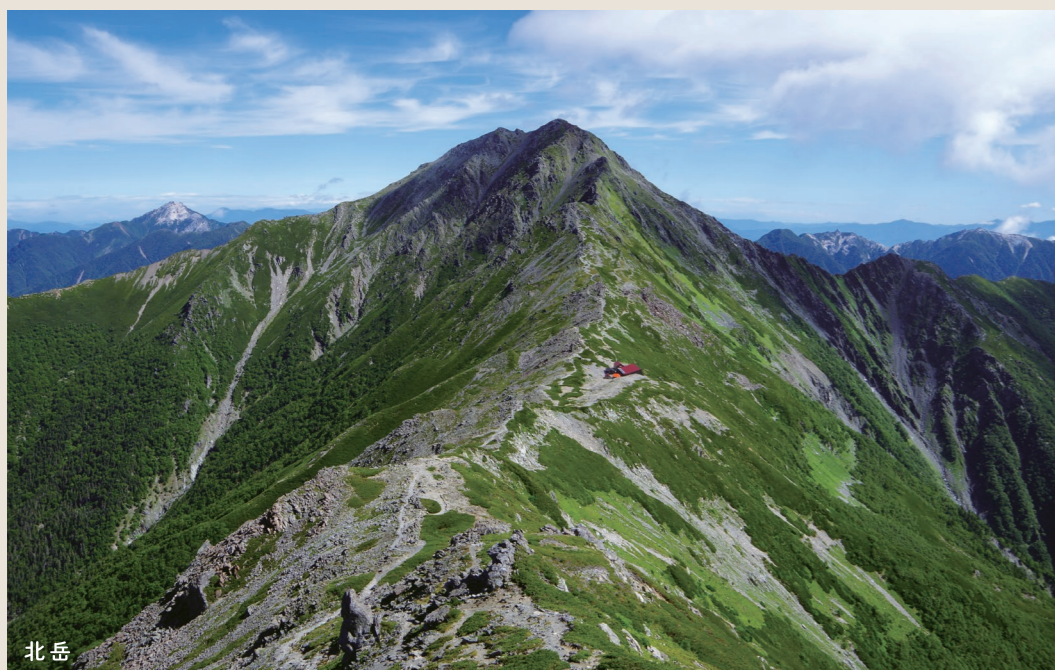


南アルプス かいまる

天然記念物登録されている甲斐犬の「kai」、南アルプスの英語表記「minami alps」の1・7・8文字目を繋いだ「mal」を平仮名表記したもの。愛称は「かいまる」

性格 元気いっぱいであっぴりやんちゃな甲斐犬の男の子。でも実は甘えん坊。

趣味 果物狩りや山登り、アウトドアが大好き



北岳



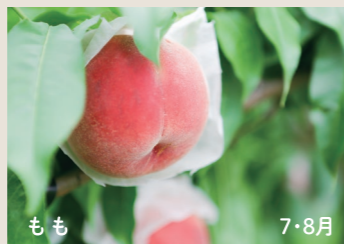
ぶどう 7~10月



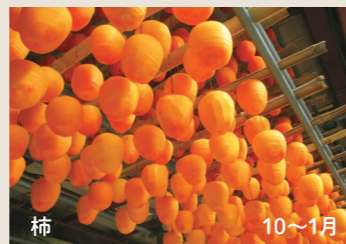
さくらんぼ 5・6月



すもも 6~9月



もも 7・8月



柿 10~1月



甲斐犬
どんな犬
犬て?

2021年 第一回フォトコンテスト
最優秀賞





甲斐犬てこんな犬



大正13年 獣医師小林承吉が、昇仙峡の奥、宮本村上黒平(現甲府市)にて猪犬型甲斐犬を発見。

昭和5年 発見した場所に由来して「甲斐日本犬」と命名、発表。

昭和6年 猪犬型甲斐犬の保存と改良を目的に、甲斐日本犬愛護会を設立。

昭和7年 西山村奈良田(現早川町)と中巨摩郡芦安村(現南アルプス市)にて鹿犬型甲斐犬を発見。

昭和8年 国へ甲斐日本犬の天然記念物指定の申請。この時、最初に発見した宮本村の猪型犬甲斐犬は他県に持ち出されていたため、所在地登録が出来なかった。

同年5月、名称を「甲斐犬」に変更。最初の甲斐犬展覧会を開催(天然記念物指定調査の為)。

昭和9年 文部省告示第16号で「甲斐犬」が国の天然記念物に指定(1月21日)。

1. 体高39.5~45.5cmまで
2. 体重11.25~22.5kgまで
3. 耳と吻(口周辺)が少し長め
4. 口腔は黒色で舌に黒い斑点がある犬が多い
5. 四肢は強健で飛節(飛関節)が長い
6. 尾は差し尾または巻尾
7. 毛は粗剛で虎毛

- 黒虎毛…地色が黒で茶褐色の虎斑
- 中虎毛…薄黒色と茶褐色のけが半々の虎斑
- 赤虎毛…茶褐色または薄茶色の地色に黒褐色の虎斑

猪犬型甲斐犬

宮本村(現甲府市)、西保村(現牧丘町)、九一色村八坂(現身延町)にて猪の獵犬として飼育。体高45.5~51.5cm。「拝み尾」と呼ばれた巻尾が特徴。尾の筋力が弱いため先端が垂れ下がった拝んでいるような形の尾。第2次世界大戦中に絶滅。

鹿犬型甲斐犬

芦安村で発見。擬態色の虎毛、敏捷で発達した運動能力、利口で主人に忠実な性格の甲斐犬は、南アルプスの標高の高い険しい山で、カモシカや熊などの狩猟を行っていた住民の生活を支えた。甲斐犬が発見された当時、他の地域では他犬種も飼育されていたが、芦安村では甲斐犬のみを飼育していたこと、体型や当時の飼育状況、飼育頭数などから芦安村が発祥地と判断された。なお、現存する甲斐犬の多くは芦安村系鹿犬型甲斐犬。

甲斐犬の特徴

① 日本犬6種の中で、甲斐犬だけが唯一全身虎毛一色、鹿犬型体型。

| 日本犬6種 | |
|--------------|---------------|
| 秋田犬(昭和6年登録) | 甲斐犬(昭和9年登録) |
| 紀州犬(昭和9年登録) | 柴犬(昭和11年登録) |
| 四国犬(昭和12年登録) | 北海道犬(昭和12年登録) |

- ② 体高…39.5~45.5cm
- ③ 体重…11.25~22.5kg
- ④ 額……大脳が大きい他犬種に比べて大きく丸みがある
- ⑤ 耳……他の犬種と比べて大きく、やや前傾した三角形の立ち耳。聴力に優れ、僅かな異変もすぐに察知する
- ⑥ 目……目尻に少し丸みがある。「やや三角にして虹彩暗褐色を呈し、毛色により多少の濃淡がある」のが理想とされている
- ⑦ 口……口腔が黒く良く引き締まっている。舌斑があるのが大きな特徴だが、舌斑の有無は純粋性に関係しない
- ⑧ 鼻……漆黒で艶がある。嗅覚に優れている。口吻(口から鼻)が長い
- ⑨ 胸……胸郭が大きくかつ筋肉質。特にオスは胸板が厚い
- ⑩ 胴……強く引き締まった細身の筋肉質。背はまっすぐ一直線
- ⑪ 脚……飛節が長く、動作が敏捷。跳躍力や走力に優れている
- ⑫ 尾……敏捷に疾走するのに適した力強い尾。差し尾と巻き尾があるが、巻き尾も疾走し跳躍するときは、巻きを解いてバランスを取り差し尾の形になる

甲斐犬の性格

主人やその家族に対し忠実で従順。初対面の人に対しては強く威嚇し、「一代一主」の犬と呼ばれるが、基本的には素朴で素直。頭が良く、温和な性格。

参考文献

| | |
|----------------|------|
| ・甲斐犬の歴史と解説 | 小林君男 |
| ・芦安村誌「芦安村と甲斐犬」 | 芦安村 |
| ・日本犬図鑑 | 岩合光昭 |

1934年に天然記念物として指定 甲斐犬

紫色をしたつづらなひとみりりしい顔立ち

立ち耳

巻き尾または差し尾

毛色は虎毛(黒と茶のしま)や黒

ジャンプ力のある脚

鼻先が長く、舌に「舌斑」と呼ばれるあざのような黒い模様がある

毛色 (狩りをする際の保護色となる)

甲斐犬の体毛は剛直な印象が求められる。また、虎毛の毛色は「黒虎毛」「中虎毛」「赤虎毛」の3色に分類されている。



赤虎 現代では珍しくなった鮮やかな赤色の虎毛

虎毛は山で狩りをする時、周囲の風景に同化して保護色になったようだ。地色が薄黒色か茶褐色で虎斑を有するものを「赤虎」という。同じ赤虎でも虎毛のパターンは個々に特徴があり、見比べてみると面白い。

中虎 光の当たり具合で微妙な変化が楽しめる

地色が茶褐色か薄茶色の虎毛。赤虎と黒虎の間色……といった感じだろうか。甲斐犬を見慣れない者には、赤虎との区別が難しい。また、中虎と赤虎の毛色の犬は、近年になって少なくなったといわれている。



黒虎 精悍なイメージが濃厚 甲斐犬のスタンダード色

地色が黒色で、茶褐色の虎斑を有するものを「黒虎毛」と呼んでいる。光線の当たり具合によっては真っ黒に見えることもある。現代の甲斐犬は、黒虎の毛色が圧倒的に多いと言われ、目にする機会が最も多いタイプ。